

令和3年度 中央区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	令和3年12月24日（金）午後1時30分から午後2時35分まで
会 場	中央区役所対策室（NEXT21・5階）
出席者	中央区自治協議会委員27名（欠席11名） 区PTA連合会：会長、筆頭副会長、副会長 教育委員：田中賢一教育委員 乙川千香教育委員 事務局：教育次長、教育総務課教育政策室長、教育総務課係長、中央公民館長、中央図書館長補佐、中央区教育支援センター所長 他4名 傍聴者1名 マスコミ0名
議 事	1 開会 2 教育委員挨拶
田中委員	今年度から中央区を担当しています。本日のテーマでありますコミュニティスクールにつきましては、保護者・地域・学校が一体となって地域総がかりで子供の豊かな成長を支えていくものです。来年度からの本格実施に向けその内容を伝えさせていただきます。忌憚のないご意見、ご質問をいただきコミュニティスクールの運営に活かしてまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。
乙川委員	今年度から教育委員を拝命させていただいています。コミュニティスクールやGIGAスクールが始まり子供たちの教育環境が急速に変化しています。学校でできること、地域でできること、ご家庭でできること様々ですが、それぞれが協働できるような、子供たちが学びやすく、暮らしやすく、活動ができるよう皆様のご意見を今日は聞かせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。
議 事	3 中央区PTA連合会挨拶
会 長	皆様お疲れ様です。今までコミ協と学校側と連携はあったと思いますが、もっと簡略化してつながりを持てるコミュニティスクールを学ばしていただきながら今後のPTA活動に活かしていきたいと思います。よろしくお願いいたします。
筆頭副会長	皆さんこんにちは。学校の先生と地域と保護者をつないだコミュニティスクール。保護者が何ができるのかなと今は持って帰りたいと思いますので、忌憚のないご意見いただけると嬉しいです。よろしくお願いいたします。

副会長	<p>こんにちは。先日も小学校でコミュニティスクールについて話し合ったところでした。地域と子供たちがより良い生活をしていくために、大人になってからまた地元に戻ってくるような地域を共に作っていくようなことも話し合いました。今日は一緒に学ばせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
議 事	<p>4 説明</p> <p>(1) コミュニティスクールについて</p> <p>(2) モデル校の活動紹介（鳥屋野中学校より活動紹介）</p> <p>(3) 質疑応答</p> <p>※（1）の説明内容は会議資料を参照</p>
校長先生	<p>今日は年内の授業最終日でした。先ほど全校生徒に向けてちょっと長い話をしました。その中で君たちは今学校での様々の活動を通して、学び、未来を作っているんだ。今は未来につながっているといった話をしてまいりました。当校の教育目標は「未来を創る生徒」です。今日は当校がモデル校として昨年から取り組んできた学校運営協議会、コミュニティスクールについてどういう考えをもとにこれまで取り組んできたか、今年度を含め2年間の取り組みの実際を簡単ですがご説明させていただきます。前半、総合的なことをわたくし校長が、後半に取組みの実際と活動の紹介を教頭がご説明します。</p> <p>まずは皆さんお手元の鳥屋野中学校のリーフレットをご覧ください。開いていただくと「社会が変化する 学校が変わる」というページがあります。大きく変わる現代社会の中で、開かれた教育活動の編成と実施が求められているという面があります。私たちはそれに対応していくために、鳥屋野中学校はこれからも、保護者の方々や、地域の方々、のお力をおかりして、次のような学校に少しずつ変えていきたいんだということで保護者の皆さん、そして地域の皆さんにご理解を得ながらやっていくというところです。この中核になるのが学校運営協議会、コミュニティスクールと考えています。私どもの学校が大事にしているところですけど、「未来を創る生徒」という教育目標にむかってこういうビジョンを持って取り組んでいく。昨年から取り組んでいます。鍛え育む資質・能力として、情報を収集・整理する、知識や技能を活用する、計画や見通しを持つ、考えや情報を吟味する、多様な考えを受容する、感情をコントロールするということを観点に、なりたい自分になって行こうと様々な節目で生徒が自己評価しながら、それに各担任そして学年主任等々で子供たちが書いたところに赤を入れ、励ましたり、もうちょっとこういうところを頑張っていこうよ、ということを入れながらやってい</p>

ます。この資質・能力は日々の授業をはじめ、各種行事や部活動など、すべての教育活動を通して、育んでいます。

コミュニティスクール、学校運営協議会は私どもの学校の抱える様々な課題、その解決のため学校にアイデアやアドバイス、様々なお知恵をいただくための諮問機関として、そして解決の方法を共に考えてくださる機関として機能しています。

これまでは地域や地域社会に学び、成果をまた地域に働きかけるというような総合的な学習のありかたですとか、それについて具体的な人を紹介していただいたり、それからアイデアを提供していただいたり、様々な協力を学校運営協議会皆様からしていただきましたし、今年度それが実現しお話を聞く会、うちは生徒数が多く 800 人以上の学校ですけど、ダイナミックに1日半かけてやることが出来ました。また今後は、地域社会と共に学校だけではなく、様々なことを運営していけるように、部活などはそうになっていけばいいなあと思っているところです。そういうことについても、アイデアや知恵を頂いたり、ご紹介いただいたり、共に考えていただきたいと考えているところです。様々な活動そういうものを学校運営協議会の皆さんと考えていく。そして楽しい学校に、そして子供たちが本当にこの学校でよかった、保護者の皆さんがこの学校に通わせてよかったといえるような学校づくりを学校だけでなく、広くそうやって行きたいと考えています。具体的な今年度の取り組みについてはこの後、教頭の方から説明させていただきます。

教頭先生

よろしく申し上げます。当校の学校運営協議会のメンバーですが、委員の方が10名、コミュニティスクール事務員が3名というところです。事務局には正式な組織ではありませんが教頭が2名という形で組織しています。当校学校運営協議会を進めるにあたって最も大事にしているのは、協議です。もちろんですけど年に3から4回、ぐらい開催して、というのも皆さんお仕事抱えられていますし、なかなか皆さんの時間がそろうというのは設けられませんから大体それぐらいが限界なのかなというところです。さらに一回の協議会の時間を1時間半から2時間程度と非常に限られた時間の中で行いますから、この協議を行うにあたって当校では事前に会長さん、副会長さんなりに来ていただいて、綿密にどういった感じにするのか、どういう風に流していくのか、何が必要なのか、こういったところをしっかりと打ち合わせをして、いい協議会を持てるように臨んでいます。協議の内容も様々あると思いますが、年度当初であったり、学期末であったりそれぞれに応じたところがあると思うのですが、当校では必ず入れている協議がこちらになります。子供や学校が抱えている課題です。これは教師の授業力を高めたいとかなんか委員会が無駄だとかという学校が抱えている問題ということではなく、地域の皆さんとのかかわりの中でよくしていかなければいけないところ。そうい

った課題が主になってきています。たとえばどんなものがあるかという、今ここに挙げているのが地域の皆様のちからを要する課題です。我々が一番に取り組んだのが総合的な学習の時間です。総合的な学習の時間で何をやる時間なのということですが、簡単に言いますと、各教科で身に付けてきたこと、学んだことを生かして総合で取り扱うテーマ、学習のテーマに活用しながら、個々が問題意識をもってどんどん探求していく。問題を解決していく。そういった学習が総合的な学習の時間です。もちろん当校もそういった学習を目指していきかけたところですが、実際、鳥屋野中学校で行ってきた総合学習というのは、そういった個の探求ではなく、1年生はこれを学びますよ。2年生はこれを学びますよ。といった形で、今日からみんなこれやるよといった形で、個々の問題意識のないところで各学年の単発な学習。また、みんなこれやりますよというような学びが続いていたわけです。こちら1年生の防災学習の様子ですが、親松排水機場で、洪水が起こったらこうなるんだよ。こういう風に避難したらいいんだよと学習している様子です。これはビッグスワンのところで地震が起きたらこのように避難しますよというのを学習しているところです。先ほども校長から話があったように1学年でも300人に迫るような人数があります。1学年3クラスの学校での全生徒分が1学年にひしめいている状態です。そういった状況で子供たち1人1人の個に応じた学びというのが非常に難しかった。だから1か所に大勢を集めていっせいで授業、いっせいで講義をすることでしのいできたところはあります。今年から学習指導要領が変わったということもあり、しっかりと子供たちのそういった力を伸ばせる学習にしていきたいというところで、このコミュニティスクールの場でこういったお願いをしたところです。地域の教育資源を紹介してください。ここにいらっしゃる方は何を言っているんだと思うかもしれませんが、学校の職員というのはその地域の人ではない。悪い言い方をしたらよそ者というところもあります。長く勤めていても学校の仕事に追われてしまってなかなか地域の方とのかかわりだとか広がりを持ってないのが現状です。なので、せつかくこういう機会があるのだからどういった人たちがいますか、どんな団体があるのですか、教えてくださいといったところをお願いしたところです。そうしたらほんとにたくさんの人たちを紹介していただきました。こういう人たちがいるんだよ。そういった学びがしたいんだしたらこの方に聞くといいよ。この方はこういった取り組みをしているから、その取り組みからこういった学びができるよといった学びの具体までも指南していただきました。こういった中から私どもの中でできることと、できないことを取捨選択しながら進めていったところ、例えば1年生、先ほど防災学習のようすを見てもらいました。大勢が一か所に集まりポンと講習を受けるといったことから、この子供たちは避難所開設に防災問題意識を持っている子供たちで、避難所開設はどうやればいいのか、どうすればこうゆ

うことがやれるか提案したところ、たくさんの防災士を紹介していただき、子供たちが学びたいことについて、本当に地域がかかわってくれて、深い学びにつながりました。これを見てもらうとちょっとわかりにくいんですが、これだけたくさんのところに今年は職場体験に行けたんです。職場体験についても学校の教職員では、去年どこに行きましたか、じゃそこに連絡取りますねというレベルなんです。今年は案の定コロナ禍でしたのでたくさんのところからお断りをいただいたんです。もう子供たちの職場体験は厳しいんじゃないかなといったところでした。このコミュニティスクールを受けて地域教育コーディネーターさんが何とかしますということで、今まで学校の先生がそういった事業所にアポイントを取ったんですけど、私たちしますということで地域教育コーディネーターさん、それから学校ボランティアのみなさんが一生懸命アポイントを取ってくれて事業所をふやしてくれた。やっぱり職員が言うよりも地域の方が「頼むわね」「引き受けてくれね」というと、わかった、いいよ、頑張るよ、ということでいろんなところが引き受けてくれました。そうして子供たちはそういった地域の中で社会の中で学ぶことができたんです。いろいろと手のかかる子供たちだったのですが、この学びを契機に井の中の蛙大海を知ることができ、普段の学校生活の中でも自分もいつかこの大海に社会に出ていくことに結び付けながら、行動や学びができるようになって非常に変わった。ほんとに社会、地域とかの力って大きいんだなと実感したところなんです。このように学校運営協議会で話し合ったことが、しっかりと地域、学校、協働活動ですね。ここに浸透してくる。そしてうちの教育コーディネーターはすごい力持ちですので、教育コーディネーターが中心に声をかけて学校・クラスの中に入って行って子供たちの豊かな学びに結び付けてくれた事例です。

さらに先ほども出た GIGA スクール構想、簡単に言うと子供たちに 1 人 1 台タブレットが貸与されて、それを用いて学習しているんですが、それを用いることによりどんな良さがあるかということ、教室にしながら世界とつながるという、世界といわず、いろいろな市町村、一瞬にしてみんな考えを共有出来たり、わからないことを調べられたり、また、学校を出たところで様々な写真を撮ったり、録音したりして、いろんな情報を収集し、さらに家庭での学習でも学校とつながりながら集めていくことができる。という良さがたくさんあるタブレットなのですが、実際ふたを開けるとどうなっているかというと、例えば授業中関係のないサイトを開いていたり、動画を見ていたり、ゲームをしていたり、こういった姿があります。これは決して学校ばかりではなく、家庭に帰ってもそうなんです。家庭に帰ってもずっとタブレットを開いている。動画を見て、ユーチューブを見てゲームをしている。親もそれを取り上げたいんだけどこれは勉強に使うからと取り上げられない。でも明らかに使っていないと取り上げようとすると喧嘩になる。平和な

家庭が一瞬にして日々喧嘩の毎日になってしまう。時には家具が壊れるという苦情も来ます。その都度すいませんと謝るしかないんですけどこういったこと、学校でも家庭でもそして子供たちも自分たちの使い方はどうなんだろうということで、生徒会が中心になって自分たちの使い方も一度改めようよ。新潟市が出した GIGA 宣言に基づいて正しい使い方ができるようにやっついこうよと呼びかけ動いているところでもあります。こういった状況をコミュニティスクールの中でもどうしたらよいか、みんなが考えみんなが抱えながらこの問題を解決していこうということで学校・家庭・地域でどんなことが出来るかということで話し合いました。その中で上げられてきたことを、たよりだとか、市民がだれでも見れるところに掲示だとか、鳥屋野中学校ではこの問題についてそれぞれの立場でこんなことをしていこうとまとめており、アナウンスしています。まだ、アナウンスの仕方が弱いので、もっともっとうこういった協議会で話されたことを全保護者、地域の人が知れるようにしていきたいと考えているところです。

今後の予定ですが、先ほど校長から話のあった部活動指導です。こんなことがありました。私仕事が遅いものですから、土曜日に仕事によく学校へ行くことがあるんですけど、その時 1 人の部活動の顧問、男子職員なんですが入ってきました。おはようございますと言って入ってきたんですけど、なんか普段より元気がないような気がしました。ちょっと元気がなかったので、「どうした」と声を掛けたんです。「どっか悪い」と。「そうゆうわけではないんですけど」、語り始めたんです。ただ自分が家を出てくる時に、3 歳の息子さんが泣きついたら、「父さん一緒に遊ぼう」「父さん部活があるから」「でもいいじゃん遊ぼう」「ごめん父さん部活があるからごめんね」と言ってそのお子さんを離してきたと、それをひきづって浮かない顔になっていたと、私それを聞いて、「部活終わったらすぐ帰って遊んであげな」といったんですけど、「ちょっと平日の仕事も残っていてそれもやっついていかなければならないんです」。平日も 5 時 30 分で部活が終わりますから、そこからだとしても 7 時・8 時になり終われないで帰ってしまう。その残りを土日にしなければならぬですね。そういった中で、私がかげられる声としては中学校の先生はそうゆうもんでしょとは私とても言えません。今、国も土日の部活動については必ずしも教員が常時するものではないと言います。ですがそういった休日に部活動をしないと、子供たちや保護者からどうして土日に部活をやらないんですかといわれるのが実態です。令和 5 年度から段階的に学校部活動から地域部活動に変換していくと、移行していくというところであるんですけど、やはりこのことも令和 5 年を待つのではなく少しづつ可能なところから、地域の方の力をいただきながら学校活動から地域活動に変更していくことを当校では考えていますし、おそらくここにいらっしゃる皆さんの中学校も課題、問題になって行くと思いますので、お互いどう

いう風にやっていますかというところを連携しながら進んでいけたらなと思っています。

最後になりますが、地域と共にある学校づくりということでコミュニティスクールを通してこういった学校を築いていきたいと思います。やっているわけですが、私たちがちょっと鳥屋野中学校で弱かったなと思ったのがこの部分です。1丁目1番地になるかもしれないですけど、地域・保護者共有して学校づくりをしていくという。どうも私たちのところではそこに対して、学校が決める。学校の職員がこういう生徒を育てたいんだ。生徒の実態からこんな生徒になってほしい。といったところで生徒像を定め教育目標を設定して、日々の教育活動を進めていくわけですが、コミュニティスクールが入ってきて地域総がかりで育てていくんだとなったときには、そうではなくて、地域・保護者・学校がどういった子供たちを育てたいのか。ここをしっかり話し合って共有していく必要があるんです。そうしないとだから地域で防災、だから PTA は。地域でこうゆう形があるからまさに目指す方向に向かっていく。だから学校さん連携して活動を一緒にやっていきたいと思います。連携が生まれる。だから3者共通してどういった子供を育てていくかをしっかり話し合って、設定することが大事になって行くのかなと思います。これから各地区でもコミュニティスクールがスタートすると思いますが、このところが大事になってくると思いますので参考にしてもらいたいと思います。学校でも来年コミュニティ元年を迎えるわけですがこれについては1年かけてしっかり3者で話し合っていきたいと思っています。

最後に言ったように教職員・地域・保護者だけでなく、学校にいる子供たちも。そして子供たちは3年しかいません。小学校の6年間これも大事になってきますから小学校の学校関係者もまじえて、それぞれどんな生徒像を望む、目指すのか、来年度はしっかりと足並みをそろえて地域・保護者・学校がともに地域の子供たち、地域の宝をこのコミュニティスクールをとおして大切に育てていきたいと考えています。ご清聴ありがとうございました。

司 会

ありがとうございました。それではこれより、質疑応答に入ります。本日のテーマでありますコミュニティスクールについてご質問をお受けしたいと思います。ございましたらマイクをお持ちしますので挙手をお願いします。なお、発言する際には、所属とお名前を、お聞かせください。

自治協委員

大きなテーマで2つ、あと具体的ところで2つ質問します。今、下地区には4つのコミ協がありますが、学校に関しだいたい学校とかかわりがあります。学校評議会というのがあるのですがそれと決定的な違いをお聞きしたい。それから協議会年間4回ぐらいという話がありましたが、例えば学校側に何か問題があった場合、この委員の方から招集できるのかまず2つ。

それから具体的なものとして、前の学校で私どもジュニアレスキューというのをやったんですが、教育委員会の指導か、校長の考えの違いか途中でジュニアレスキューの子供たちと地域とのかかわりがなくなりました。私たちは続けて欲しかったのですが、今日のコミュニティスクールではそういうのもやっていただきたいとなれば学校の考え、教育委員会の考えと違ってできるのか。それから私ども地域の人間としては教育の前に子供たちを安心して学校に届けるのが役割だと思っています。今地域の方で通学路が痛ましい事故があるので、こういうものを地域で考え、いろいろ行政にもお話しているのですが、今のところ動きが鈍いようです。例えば私がさっき申し上げましたけど、問題があった時、協議会を開いてほしいということで協議会で賛同が多いようであれば行政から教育委員会を動かすことができるかどうか、今以上に学校の問題をもっと子供たちのために動かしていただけるかどうか、大きなテーマ2つと具体的なテーマ2つよろしくお願いします。

教育総務課

ありがとうございます。学校運営協議会に期待していただいているからのご意見をいただいたと思っています。まず最初に学校評議委員会制度と今回の学校運営協議会の違いということでお話をしたいと思います。まず学校運営協議会は法にのっとった組織であるということに大きな違いがあります。例えば、学校評議委員会ですと役割として校長の運用次第という面がありました。ですが今回、法によって役割が明確化されています。先ほど出ていたかと思うんですが、1つ目は、学校の教育ビジョンを承認すること。そして学校運営について意見すること。教職員の任用について意見を申し立てるとかいったことがあります。その役割、権限が明確であるという点が今までと違う点であると思います。また、学校評議員の方は評価とか点検であるというところがメインの部分になっていたと思うのですが、今回はその目標から一緒に考えていただくということになりますので、まさに一体的に一緒に考える存在という意味合いがあることになってきています。1点目はそんなことでいいでしょうか。次に年間4回というようなことで申し上げましたが、特認の会を設けることができるかという質問だったかと思いますが、現在のところ4回を上限としてということでお話をしております。ただ不測の事態、みんなでどうしても協議したいことというのが起こってくる場合もございます。それについては、ご相談いただきたいなと思っています。3つ目です。ジュニアレスキューという今まで行ってきたものが途絶えてしまったということでしょうか。その継続についてみんなで考えたい。そういう提案ができないかということですね。学校運営協議会でそのようなこともお話をいただいて、それはやはり継続すべきだということでみなさんで合意がまとまりましたら協議会の会長様の名前で教育委員会の方に申し出ていただくことができます。最後です。安心を守っていただくこと、一番大事であるとい

自治協委員	<p>うことは本当にその通りだなと思っています。それについても、新たな提案についても学校運営協議会でまさに熟議していただきまして、その結果ということで教育委員会に伝えていただくことは当然できると考えています。</p> <p>今のにちょっと補足したいと思うのですが、ジュニアレスキューの話があったのですが防災課の方で各学校に派遣して行うということで、各校に照会したのですが、5校ぐらいしか手を上げなかった。その前の年は2校しか手を上げていないんです。だんだん増えてきているんだけど、学校の方の防災意識の問題そのものがあるということで、それを啓発しているという話を聞きました。</p>
自治協委員	<p>今日はありがとうございました。この鳥屋野中学校さんのパンフレットには教育目標「未来を創る生徒」と大きな看板が書いてありますが、これは学校運営協議会の運営方針と連動されているのでしょうか。もちろんこのパンフレットは年度が始まるのに合わせておつくりになったものですが、今回はどうか分かりませんが、今後こういったものを学校運営協議会の中で承認を受け作っていくと。それによって校長先生が年度で交代されても連綿と続く教育目標、運営をできるとそのように考えてよろしいでしょうか。</p>
校長先生	<p>今年度の2月25日ですか。最後の学校運営協議会が予定されています。その時までに来年度、2022年度は基本的に教育目標というのは変えるつもりはないんですが、今年度新たに出てきた問題に対するものですか、様々を考えて、その会の時に提案し、ご承認いただいて同じ方向で学校も学校運営協議会もやっていくと考えています。</p>
司 会	<p>ありがとうございました。これで、質疑応答を終了させていただきたいと思います。皆様からのご意見ご質問ありがとうございました。</p>
議 事	<p>5 中央区自治協議会会長挨拶</p>
自治協議会 会長	<p>本日お忙しい中、大勢の方に集まっただきありがとうございました。これからは評議委員会に変わりコミュニティスクールが始まります。私も鳥屋野中学校で委員をやらせていただいているのですが、とにかく子供たちを地域と一緒に学校と育てていくということです。いろいろやり方はあると思うんですよ。あるんですけど、まずは子供たちに地域を知ってもらうことが大事じゃないかなと思っています。地域には歴史もあります。いろいろな方が住んでいます。そして、いろいろな仕事があります。その中で例えば職場体験だとか、鳥屋野中学校では一生懸命やっています。それをやることによ</p>

	<p>って子供たちが地域を知ることになると思います。また、地域ではやっている地域もあり、例えば山潟の地域ではごみ捨てを地域のごみ捨てを中学生が手伝ったりします。中学生といいますと昔だったら働ける年齢になっています。そこで地域のいろいろなやるべきことを中学生の子供たちには担ってもらうのも、非常にいいのではないかと思います。おそらく地域には中学生にやってもらいたいこと。中学生にしかできないような仕事もあるかと思います。それらを通じて子供たちを育てていく。このようなことがコミュニティスクールじゃないかと思います。我々学校と一緒に頑張っていきたいと思います。皆さん今日はありがとうございました。</p>
議 事	6 閉会
司 会	<p>以上を持ちまして、令和3年度中央区教育ミーティングを閉会いたします。皆様長時間にわたりありがとうございました。</p>